

多摩市議会議員 政党や特定団体の支援は一切受けず完全無所属で活動中

# 岩永ひさか Report

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>

発行/岩永ひさかと夢・まち会議 Phone (留守番電話専用) / 042-371-0763



もっと市民が応援したくなるような、そして、支援し、関わりたいと思えるような構想づくりを！

市も「SDGsを学べるような場所にしていきたい」という意気込みはあるようですが、今後、具体的な構想を事業化していくには、伴う財政的な支出もそれなりに覚悟することが必要でしょう。もちろん担い手の確保も。残念ながら、その意味で、市行政を取り巻く状況を勘案すれば、そうそう簡単にスタートできるプロジェクトとも言えなさそうです

とはいえ、今日的な多目的運営の「農業公園」の存在意義を市民と共有することができ、理解、共感されるなら、多摩市の「都市としての価値」を高める取り組みの一つとし、発展させていくことは十分可能です。

ただ、現時点では、やや見切り発車で進んでいるような印象もあり、心配です。改めて、今後に向けた課題を整理しながら、未来につながる「農業公園」とし、その構想を描いていきたいものです。新規プロジェクトに取り組む覚悟を含めて、しっかりとかたちに。

「食」「農」「公園」「環境」などに関するご意見、お気軽にお寄せ下さい！お待ちしております。



## Policy & Style

公平公正な姿勢！

市民全体に向けた活動を心がけ、個人後援会は作りません。

政策づくりが議員の仕事！

議員としての専門性を磨き、市民の自治力の向上をバックアップします。

話し合いが大切！

意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「第3の道」を見つける努力をします。

## PROFILE

1977年 兵庫県神戸市生まれ 北諏訪小学校卒  
桐朋女子中高(普通科)卒 中央大学法学部政治学科卒  
明治大学大学院ガバナンス研究科修了  
金融機関に3年間勤務したのち、  
2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙にて当選。  
現在7期目。諏訪2丁目在住 家族/娘18歳(大学1年)

## Phone & Fax

☎ : 042-371-0763

いたずら、迷惑電話が多く、留守番電話専用です。  
お名前、ご用件と希望する連絡先等をお願いします。

mail : [hisaka\\_box@yahoo.co.jp](mailto:hisaka_box@yahoo.co.jp)



一人会派「夢まち会議」で活動します。

4月の改選後、瞬く間に3か月…やっとな、市議会レポートを発行することができました。選挙直後、現在、九州に住んでいる父の認知症の発症、それも、かなり進行していたことがわかり、介護問題が自分事としても切実なものとして実感することとなりました。

子どもが成長していく姿に希望や期待感、将来を思い描きながら、頑張ってきたのとは異なり、介護問題は先が見えないトンネルが続いていくような気がしています。介護と仕事や活動を両立していくこともまた大変で、今後、どのように自分の暮らしのリズムを作っていけばよいのか手探りの状態で、今はまだ、結論が出しきれていません。

人手を借り、身の回りのことにも少しの助けがあれば「まだ、自立して暮らすことができる」父なので、今はまだ、生まれ育った場所で暮らすことのほうが良いのかもしれませんが、しばらく父との行動を共にし、感じた「郷里の記憶」ほど定着していることも、認知症の一面を垣間見た思いでした。

認知症基本法が成立しましたが、認知症と向き合う当事者のみなさんの尊厳を守るために私たちは何ができるのか。支える家族はもちろんのこと、当事者や家族への支援に従事するみなさんを助け、支援していかなければ、崩壊すると感じています。今後、介護問題についてももっと学び、考えていくことをしていきたいと思っています。

さて、今後、議会活動は「一人会派」で進めます。多摩市議会は3人以上の会派(交渉会派)でなくとも、比較的活動しやすく、民主的な議会運営がされているからこそ、「一人でやってみる」という選択をしました。

「次の世代にツケをまわさない」をブレずに貫き、「今だけ、自分だけ」にならず、市民と市政の未来を常に思い描き、そのために必要な判断をしていきます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

岩永ひさか



その政策判断をした意味を市民に知らせていく必要と大切さ。

## 新しく「農業公園」をつくるとしたら。

里山を守っていく。そのために連光寺6丁目の土地を取得し、早ければ4年後の開園をめざし、現在「農業公園」をつくるための検討が進んでいます。

### なぜ、「農業公園」なのか。市民に理解されているか？

多摩市の住みよさとしてあげられる「豊かなみどり」ですが、年々、どう維持管理するかが課題となっています。公園、緑地や道路街路樹なども含め、夏に近づくと、

「みどり」の生命力を感じますが、巨木化した木々の剪定や枯れ木の伐採をはじめ、背丈の高くなった雑草など、安全安心の観点からも適切な管理をしていくことは決して楽とは言えません。

古い時代に設置された公園も遊具の改修を含め、順次大規模改修が進んでいきますが、その中で、新たに農業公園を開設する計画が進んでいます。

もともと環境保全を目的に取得された土地を活用するための方策の一つとして行政主導で計画され、市は「里山」と支える「水脈」を重視した「環境保全型農業」の取り組みを実施したいとして準備を進めています。

当該地は東京都が取得し、所有者になっているエリアもありますが、その管理全体は市で行うことを前提にした土地取得になっているため、全体エリアの維持管理経費を含めた責任は「多摩市」が管理者となり、担うことになっています。

面積が約1.4ha。広大な土地は急斜面、竹林などもあり、管理を担っていくことは簡単とは言えません。私は、取り組むのであれば、本腰を入れる必要があります。伴う予算や人材も確保していく必要を指摘しています。

既に、プロジェクトは走り始めていますが、まだ、それほど周知されておらず、少しずつ市民への呼びかけを進めていますが、「農業公園を設置しよう！」とする気運が高まっているとは言えません。

また、現在、「農業公園」は行政計画にも位置づけられているものではなく、今後、取り組む多摩市の姿勢をしっかりと打ち出さずして、税金を使っていく必要性に理解を得ることが難しいとも捉えています。



「健幸都市」「食の未来」を考える政策を進め、そこに「農業公園」を位置づけること。

さて、多摩市はすべての市民が心も身体も健康であることをめざした「健幸都市」の実現をまちづくりの大目標に掲げ、取組みを進めてきました。そしてまた、現在、10年後の「まちの姿」を描き、基本構想や総合計画が議論されています。そこで重視されているのが、「環境共生」であり「健幸都市」です。

私は、いのちの基本は「食」にあり、その源には「農」があり、「地球環境」があると捉えています。今、私たちを取り巻く「食」をめぐる課題は、低い国内食糧自給率をどう挽回していけばいいか、一方で思うように減少しない食品ロス、フードマイレージを考慮した地産地消、エシカル消費、安全・安心な食品…。消費者としての私たちは、改めて自分自身の暮らしの見直しを迫られていると感じています。



だからこそ、「農業」を見つめ、「いのち」や「くらし」を考えることのできる場＝農業公園として発展させていく道筋はありだと思います。

しかし、そのために今後のまちづくりの構想や総合計画にどう位置づけるのか。同時に、中間見直しが予定されている「多摩市都市農業振興プラン」あるいは更新予定の「多摩市食育推進プラン」にもどう関連づけていくのかが問われます。

### 「農」の可能性をもっと意識した取り組みの構想が必要。

「農作業」は五感を存分に活用しながら進めていくものだと思っています。また、広々とした農地は自然をまるごと感じることでできる場所であり、心身ともに解放される空間とも言えます。そのため、軽度認知の症状のある方々への園芸療法、ひきこもりの方々の自立に向けたきっかけづくり、あるいは、不登校の子どもたちへの支援など、「農業公園」を通じて、市が解決に取り組まなければならない社会的課題に向き合える可能性はあると思います。地域で行われている「誰でも食堂」にも野菜など生鮮品をお届けすることもできるかもしれません。

先行事例とし、「食と農で未来を変えることに可能性を感じて」開園されたSDGs自然農園「あわい農園」（大阪府）での取り組みは、大いに参考にできそうです。



### 市公式ホームページ

農業公園プロジェクト  
「連光寺・若葉台里山  
保全地域農的活用  
検討会・報告書」

